

Hm²助成支援団体のご紹介

PocketPlan

むらかみ じゅんこ
事務局 村上 純子さん

広島市在住の20代の社会人が中心となって、同じ年代の人たちが参加して楽しめるサークルを紹介し、広島のサークル活動を活発にすることを目的に、平成23年7月に結成した組織が「PocketPlan」です。

メンバーは社会人や大学生で構成され、通常は毎月1回、それぞれの仕事などが終わった後に、まちづくり市民交流プラザなどに集まって、ミーティングを開いています。

交流の場の拡大で、地域活性化を図る

「代表の鼠家が、大学卒業後に就職で故郷の広島に戻ってきた際、20代の新社会人や大学生が、職場や自宅以外にプライベートで活動できる第三のコミュニケーションをとれる場が少ないと感じたのがきっかけです。実際にスポーツサークルなど精力的に活動している団体はありますが、その情報を知っている人は少なく、もっと情報を集約して発信できる場があればと思い、サークル情報を発信するポータル組織を作ること考えました」と事務局の村上純子さんは語ります。

地域住民がお互いに助け合える社会を作るためには、多くの人々の協力が不可欠で、そのためには地域のサークル活動の活性化が有効だと考えた鼠家さんは、最初は1人で設立。その後、

趣旨に賛同した村上さん他の5人が参加。PocketPlanのホームページで紹介する情報のための取材を行ったり、広島市内のカフェ等で配布するサークル情報をまとめたフリーペーパーの作成、さらにPocketPlanと登録団体が共同で行う体験イベントを開催しています。現在の登録団体は10サークル。

学生サークルは卒業と同時にメンバーの入れ替えを行いながら存続するのに対して、社会人サークルはメンバーの入れ替えがほとんどないために持続性も高く、地域活動の活性化にも繋がると考えています。

「今後の課題は、登録団体との密なコミュニケーションを図って情報共有をすること。同時に、PocketPlan自身も運営メンバーを増員することで、広報機能を充実させることです。登録団体からはサークル運営や資金調達といった問い合わせも多く、今後はそういった実務面のサポートを充実させる事も考えています。それが、さらなる交流の場の拡大、まちの活性化にも繋がっていくのではと考えています」と村上さんは語ってくれました。



▲サークル情報をまとめたフリーペーパー



▲ミーティング風景

特定非営利活動法人フリースクール木のねっこ

よこやま
理事長 横山 はるみさん

中学生までの学校に行けない子ども、または自然に興味のある子どもに、自然体験、アート活動、農作業などの活動を通して、自ら育ち、個性豊かな自己表現ができる環境を提供する目的で、平成25年8月に結成したのが「特定非営利活動法人フリースクール木のねっこ」です。広島市安佐北区安佐町久地を拠点に活動しています。

子ども自身が、自分の力でやりたいことを見つける

「海外には、教育の場の選択肢として、公私立の学校、民間のフリースクール、ホームスクーリングなどがあり、それらが政府に認められている国もあります。

しかし、日本ではやっとここ10年近くで一般化してきましたが、まだまだ浸透していないのが実情です。そこで私たちは、日本の子どもたちにも公私立の学校以外の学びの場の選択肢が必要と

考えて、木のねっこを立ち上げました。子どもは、森歩きや、農作業、食育体験、アート活動を通じて、自然との共存、生きる力、表現の喜びを心と体で学びます」と理事長の横山はるみさんは語ります。

活動の大きな柱は、『月曜日から金曜日の日中、子どもたち自身がやりたいことを学ぶ平日日スクール』『子育て支援を行う親と子どもの勉強会』『月2回日曜日に、子どもから大人まで誰もが参加して、自然の中で一緒に遊んだり、アート活動を行う週末一般フリースクール体験』。大きく分けて、この3つから構成されており、現在は、小学1年生から4年生までの生徒6人が在籍、入学準備中の4歳児が2人通学しています。全国的にみても、公私立以外での幼児、小中学生の学びの場の選択肢としての全日制フリースクールは異例であり、広島市においてもその存在は珍しいそうです。また、安佐町久地の地域交流施設「げんき村いこいの館」を活動拠点にしたことで、地域との連携・異世代交流を実践するスタイルは、全国的に見ても例が少ないようです。

「今後は、スタッフやボランティアを増やして、フリースクールの活動を充実すること、そして生徒の増員を考えています。また全国各地のフリースクールとの連携を深めて、情報交換や交流の場を作っていくことも視野に入れています」と横山さんは今後について話してくれました。



▲平日スクールの様子



▲週末一般フリースクールの様子

八幡東ほうれんそうネット

はしもと ひでき
代表 橋本 英樹さん

広島市佐伯区八幡東学区の様々な地域課題を克服して「安心・安全で住みよいまちづくり」を実現するため、学区内すべての地域19団体が連携して一体的な地域活動を行うことを目的に、平成22年に結成されたのが「八幡東ほうれんそうネット」です。団体名は、報告・連絡・相談の頭文字から「ほうれんそう」とネーミング。住みよい八幡東を目指す地域住民が、なんでも報告し、連絡、相談できる。「そこに行けば、地域のことは何でも分かる」コミュニケーションの場所（しくみ・ネットワーク）に由来しています。

地域と一体となった取り組みで住民をサポート

「団体結成翌年の平成23年に、地域ニーズに合ったきめ細やかな組織運営を行うために、『防犯・防災部会』『ふれあい部会』『生活環境部会』『情報・広報部会』の4つに分けて活動をスタートさせました。まず取り組んだのが地域住民の防災への意識向上です。それは、広島市が重点的に各地域での精力的な活動を求めている点であり、加えて佐伯区には、五日市断層があり、住民のニーズも高いと考えたからです」と代表の橋本英樹さんは語ります。

平成23年と翌24年は、この五日市断層について、平成25年

防犯パトロール組織「イエローレモン隊」▶

には災害が起きた時にどう行動すべきかについて、専門家を招いて防災講演会を実施。今年、平成26年は、八幡東学区の住民の1/3がニューファミリー層で構成されることから、大人だけが講演を聞くのではなく親子三世代で参加してもらるように「こども防災フェア」を開催。約500人が参加するなど、住民の防災意識の向上にもつながっているそうです。また、団体結成前から地域住民が取り組んでいた防犯パトロール組織「イエローレモン隊」の活動にもより力を入れることで、まちづくりは自分たちの手で、といった機運が高まっていると言います。他にも、年間を通して行われる学区行事全てに何らかの形でサポートするなど、まさに地域と一体となった取り組みを行っています。

「昨年、広島市地域ポータルサイトこむねっとひろしま内に立ち上げたホームページで情報発信を積極的に行っていく他、地域の企業や大学と連携して活動を拡大していくことも視野に入れています。中・長期的な、持続性、発展的な運営を可能にするために、NPO法人に移行することも目指しています」と橋本さんは今後について語ってくれました。



▲「こども防災フェア」の様子

寄付のお願い

ひと・まち広島未来づくりファンドHm²（ふむふむ）は、市民・企業・行政等が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支援育てていこうという基金です。現在、その基金を取り崩して助成を行っています。私たちの住む広島のまちをよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店／別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口
専用の振込用紙をご使用いただければ、手数料はかかりません（ただし、広島銀行の窓口からの振込に限ります）。広島銀行の振込用紙を使用、または他の金融機関からの振込の場合、手数料は自己負担となります。
※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。
※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日（休日の場合は翌営業日）に基金へ寄付させていただきます。



基金の愛称「Hm²（ふむふむ）」とは…【ひと（Hito） まち（Machi） 広島（Hiroshima） 未来づくり（Mirazukuri） ファンド】の略で、頭文字（HMHM）をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。



（公財）広島市文化財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm²（ふむふむ）」を設けています。

この基金は、豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は公開により、学識経験者などで構成する運営委員会が審査・選考を行います。

平成26年度助成団体や助成額等については、（公財）広島市文化財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

また、基金では多くの皆様からの寄付をお願いしています。

HP <http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

人材バンク 名人宝人 達人

さまざまな分野の達人たちが登録している
まちづくりボランティア人材バンク。地域活動や
まちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを
達人たちがおうかがいしています。

一人でも多くの人を笑わせ、喜んでもらう。
そのために満足せず、妥協しない貪欲な取組み

七色亭紫陽花 吉野 紫小枝さん

平成13年に「ひろしま女性大学」で学んだことを多くの人に
分かりやすく伝えるために落語
を始めたのが、七色亭紫陽花こ
と、吉野紫小枝さんです。

「人を引きつけて、興味を持つ
てもらおう話し方を学ぶために始
めた落語。初めは落語自体にあ

まり魅力を感じてはいなかった
けど、気がつくといつの間にか引
きつけられていました」。

平成15年に人材バンクに登録。
今では月2回のペースで広島市
内はもちろん、県内各地にも積
極的に足を運んで、落語のほか、
参加者の年齢や人数に応じて、



▲落語の様子

歌や体操、レクリエーションなど
も一緒に披露しています。

「名前の七色は、常に変化の
ある、虹のように七色に輝く人
間になりたい、との願いを込め
ました。落語の演目は、30話ほ
ど覚えています。その中でも、
得意としているのが、『お菊の
皿』『目黒のさんま』『ちりとて
ちん』といった、淡々と喋るので
はなく、勢いのある演目です。

落語を聞いてくれる人が、私の
喋りを聞いて上手いか下手か、
どう感じるかは分からないけど、
元気さや勢いだけは感じて欲し
い。それを基本に演じています」。

吉野さん自身、自分がつまら
ない人間だと思っからこそ、人
前で喋る以上、中途半端ではな
く、諦めずに最後まで頑張って
落語を突き詰めて演じたいと



思っていると言います。「席終え
ることに、たとえ参加者が笑っ
ても満足せず、次の高座に向け
ての反省と、日々鏡の前で練習
に取り組むなど、意欲的な姿勢
で、結果を求め続けています。

「13年間の積み重ねの中で感
じているのは、本番をきっちり
迎えるための、事前準備の大切
さです。丁寧に準備することで、
焦らず本番を迎えることができ
ます。その上で、参加者のひと
りでも、私の落語を聞いて笑って
くれたら、天にも昇る気持ち。
そして元気になってくれたら、
嬉しいです」。

吉野さんは、自身の体力、気力、
そして周りの環境が許すことな
らば、今後は時事ネタや社会風
刺を取り入れた創作落語にも
チャレンジしていきたいと、常に
向上心をもって活動しています。



▲高座の様子

優しく震わす独特の音色で、聴く人を魅了。
マンドリンを通じて、音楽の楽しさを伝える

マンドリン奏者 森本 恭子さん

森本さんは、広島国際会議
場で開かれた広島市民文化大
学の前座を務めたほか、幼稚園
や老人ホーム、福祉施設などへ
慰問を行っています。また、平
成19年に完成した竹屋公民館
の歌をアレンジするなど、精力
的な音楽活動を行っています。

活動拠点は竹屋公民館。平成
15年に始まった基礎から学ぶマ
ンドリン講座の講師を務め、その受
講者が立ち上げたグループ「竹屋
ギター・マンドリン・アンサンブル」
に講師として結成時から協力。
現在も毎週竹屋公民館でこのア
ンサンブルグループの指導を続け
ており、月2回ほどはメンバーと
出張コンサートに出かけるなど、
積極的に活動しています。



▲福祉施設での慰問活動の様子



▲平成20年には「小さな親切」運動の表彰
を受けた竹屋ギター・マンドリン
アンサンブルの活動



「アンサンブルのメンバーは、40
代後半から80歳まで、平均年齢
60歳近い22人で構成しています。
マンドリンの魅力は、単二の高さの
音を連続して小刻みに演奏する
トレモロと呼ばれる技法です。優
しく震わす独特の音色で、聴く
人にとりこにします。アンサンブ
ルで演奏する曲のレパートリーは、
童謡・唱歌、ポップス、演歌、さ
らにはオリジナルまで100曲
近くのにほります。毎日の練習
とともに、頭の中でイメージし
ながらアレンジした楽譜を書き
起こす作業は楽しいです」。

さらに森本さんは、広島市南
区の大河公民館からも依頼され
て、竹屋公民館と同じように、大
河マンドリーノの講師も務め、
来年には南区民文化センターで



▲竹屋公民館まつりでの演奏の様子

開かれるイベントにも一緒に出演
を予定しているそうです。
独特の音色に魅せられて集う、
世代を超えた人たちを率いる森
本さん。
「メンバーは、楽器を手に持つ
と、まるで学生に戻ったような
気分で、演奏を楽しんでいます。
私もメンバーと同じ気持ちで、
これからもマンドリンを続けてい
きたいです」と語ってくれました。

まちづくりボランティア人材バンクへ
寄せられた声を紹介します

地域活動や手づくりイベントなど市
民の皆さんが活動する中で、「アドバ
イスがほしい」「教えてほしいと思うこ
とはありませんか？困った時には、その
道の「達人」に講師や指導者をお願いす
るのが一番です。

まちづくりボランティア人材バンク
では、「達人」の紹介コーナーを設けて
しています。ここで、達人たちの活動後
に依頼団体から寄せられた声を紹介し
ます。

・高齢者福祉施設でマジックの実演
普段は椅子にじっと座っていることが難
しい方もマジックショーに釘付けでし
た。絵から本物のみかん、新聞から生
きている金魚が出てきた時には、大歓
声があがり、非常に楽しませていた
きました。

・保育士対象の救命救急法の指導
心肺蘇生法の指導が大変わかりやす
く、訓練することの大切さや考えて行
動すること、大切な命を預かっている
ことを改めて感じる事が出来まし
た。

・成人対象の健康指導

健康についての講演を聞き、足つぽ
マッサージの体験をしました。参加者
同士がお互いの足をマッサージしな
がら、とても楽しい時間でした。次の日
は足も身体も軽くてうれしかったで
す。費用もかけずに家で続けられるの
で、これから続けることで身体がどう
変わっていくのか楽しみです。

・子ども対象の工作指導

子ども達がとても集中して工作「おさ
んぼカメさん」に取り組み、「夏休みの
宿題ができた」と喜んで帰ってしま
した。紙トンボも用意していただき、
皆で楽しく遊ぶことが出来ました。

まちづくりボランティア
人材バンク発表会

今回ご紹介している方々は、「まちづ
くりボランティア人材バンク」に登録さ
れています。

登録者が自らの達人ぶりを披露しま
す。参加は自由ですので、気軽ににお立
ち寄りください。

日時 毎月第4土曜日午後2時〜4時
場所 南棟1階ロビー
参加費 申込 不要

月 日	内 容	出演者名
12月27日(土)	自然の豊を使った お正月リース作り	舞 ひかるさん
1月24日(土)	楽しい腹話術とパネルシアター	USAGIひろこさん 野うさぎさん
2月28日(土)	心に響くお箏コンサート	専徳院 知子さん
3月28日(土)	足のトラブル予防と改善	古山 昌子さん

※内容等変更になる場合があります。

達人紹介・達人登録などの
お問い合わせは...

まちづくり市民交流プラザへ
☎(082)54513911
☎(082)54513838